ロールプレイングを導入した知識構成型ジグソー法の授業実践報告

— 高等学校家庭科の授業において —

齋　藤　和可子

〈キーワード〉家庭科教育学　主体的・対話的で深い学び　ジグソー法　ロールプレイング
授業研究

1　はじめに

新学習指導要領において、主体的・対話的で深い学びの実現が求められている。「アクティブ・ラーニング」は、主体的で協働的な学びと定義されているものの、授業の内容や進め方によっては、生徒の表面的な活動に終始し、深まりのない学習に陥る可能性がある。そのため、質の高い深い学びを目指すには、指導方法を工夫し、学びに必要な指導のあり方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していくことが求められる。(1)

国立教育政策研究所は、「21 世紀型能力」として実践力、思考力、基礎力の三層構造で成り立つ概念を提案している。各教科等において育てたい資質・能力を俯瞰し、全ての教科等に共通する汎用的能力として作成したと示されている。21 世紀型能力の中核となる、「思考力」は、問題の解決や発見、アイデアの生成に関わる問題解決・発見力・創造力、その過程で発揮され続ける論理的･批判的思考力、自分の問題の解き方や学び方を振り返るメタ認知、そこから次に学ぶべきことを探す適応的学習力等から構成される。(2) これらは、問題解決学習などを通して養える力と考えられている。

家庭科教育において、主体的・対話的で深い学びを充実させることは、どのような意味があるのであろう。家庭科教育が育む大きな目標は、「個人及び家族の発達と生活の営みを総合的に捉えて、日々の生活活動の中で、主体的に判断して実践できる能力を育み、明日の生活環境・文化を創ることのできる資質・能力を育成すること」(3) とある。また、家庭科では、数多くの実習を行うと共に、多岐にわたる分野の知識を習得する必要がある。実習は、生徒の活動的な学びであることから、アクティブ・ラーニングと捉えられる場合もあるが、実際は、基礎的な技能を習得することまたは経験することにのみ特化し、実習中に深い学びを行うことは難しいと考える。アクティブ・ラーニングへの学びの改革は、実習をどう深い学びへの改革するのか、そして授業をどう「知識の理解」から「知識の活用」による探求的な学びへ改革するか(4) という、見直しを求めていると言える。

この報告は、家庭科教育における主体的・対話的で深い学びを実現するための授業方法を模索した実践記録である。身につけた基礎的な知識や技能を活用し、より深い学びにつなげるにはどうしたらよいのか、この取組みを通して考察する。また、この学習方法の有用性についても検討したい。

なお今回の報告は、関東家庭科教育学会の課題研究グループ「対話的で深い学びを創る研究会」での実証研究を授業実践者の視点でまとめたものである。

2　目的

家庭科において、学習内容が生活に即した内容であることや当事者意識を持って学習内容を自分のこととして捉えることは重要である。ロールプレイングを導入して家族の役割となり知識構成型ジグソー法で問題解決することは、当事者として主体的に対話する場面が設定され、メンバーが得た知識を相互に働かせて問題解決して「対話的で深い学び」になると考えた。この研究では、主体的・対話的で深い学びを目指した授業を設計、検証しよりよい授業づくりを志向することを目的とする。また、今回の実践報告では、授業を改めて振り返り、問題解決につながる学びとなっているかを考察し、授業方法の１つとして提案することを目的とする。

3　研究内容

(1) 生徒の実態　アンケート結果から

中央大学附属高等学校 2017 年入学生５クラス 237 名に質問紙調査をし、将来に関するリスクをどのように感じているかを量ることとした。質問紙調査は、2017 年 11 月の家庭科の授業時間内に実施した。その際､授業者が生徒に対して評価には全く関わらないことを伝え、無記名で行った。

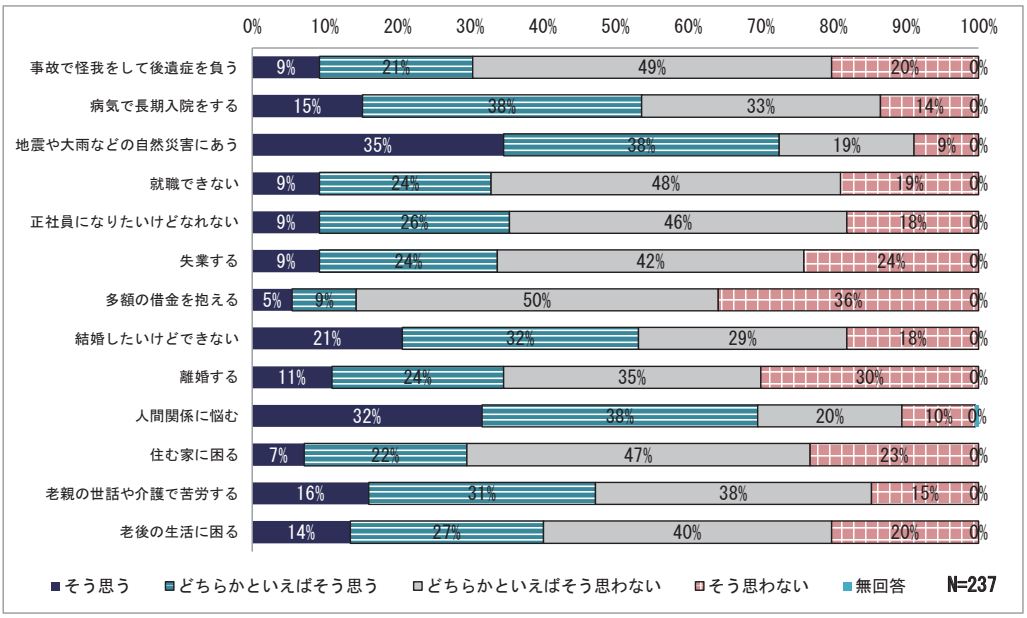
調査項目は、現在の自分の状況や将来への気持ちを問う質問９項目と、将来経験するかもしれないことについて問う質問 13 項目で、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の４段階である。

調査結果からは、様々なリスクを想定している生徒が多いと考えられた。「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が多かった項目は､『地震や大雨などの自然災害にあう』で 73%、『人間関係に悩む』が次いで 70%であった。また、『結婚したいけどできない』は 53%、『病気で長期入院する』は 48%、『老親の世話や介護で苦労する』が 47%であった。

一方､「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が最も少なかった項目は、『多額の借金を抱える』で 14%であった。このような｢そう思わない｣｢どちらかといえばそうは思わない｣が多い項目に関しても、一定数 10 ～ 30%程度はリスクを想定している、または有り得るこ

ととして認識していることが分かった。この調査結果の中では、リスクに対する対処法を考えているかなど具体的には明らかとなっていない。そのため単純に将来に対して悲観的なのか、またはリスクを想定した現実的な見方をしているのかは計りかねる。ただし、このような意識を持った生徒に対してはより具体的なリスク管理の方法や、リスクとどのように向き合ったらよいかを考える機会が必要であると言えよう。そのため、リスク管理を題材とした今回の授業は、生徒の問題意識と合致する点が多く有用であると考えられる。この授業をきっかけとし、将来のリスクについて考えを深め、適切にリスク管理し解決につながるよう行動してほしい。

図１　将来経験するかもしれないリスクに関する意識調査



＊調査項目は「対話的で深い学びを創る家庭科研究会」で検討、作成した。

３　授業実践について

授業実践に至るまで、授業内容や資料、また授業の進め方や用いた学習方法が生徒に適したものとなっているか検討しながら何度も練り直しをした。また授業実践後は、主体的・対話的で深い学びとなっていたか、またリスク管理を学ぶことができているかなど、より効果的な実践を目指し、授業開発・授業実践と検証、そして授業改善を行った。また、今回の授業内容では、基礎的な知識や技能の習得後の知識の活用が求められる探求的な学びであり、資料を読み解き、同じ役割の級友と話し合いながら問題解決することが求められる。中央大学附属高等学校の生徒は、個々の学力やコミュニケーション能力に違いはあるものの、特別

な配慮の必要がなく実施できると考え、実証研究対象として適していると考えた。取り扱うテーマは、社会生活における身近な問題とし、市民性を養うことにもつながるようにした。また、実践を重ねる事により、学習方法の工夫だけでなく授業者のファシリテート力の向上も目指した。

(1) 実施時期・授業観察者

この学習方法を用いて、2018年２月に高校１年生５クラス（2017年入学生）と2018年６月に高校１年生２クラス（2018年入学生）に授業を実施した。２月に実施した５クラスでは、比較授業として課題提示クラス（Ⅰ組）と課題発見クラス（Ⅱ組）とに分け行った。課題提示クラスは、問題解決すべき課題を提示した。一方、課題発見クラスは、課題提示せず学習者が問題を発見する授業とした。なお、５クラスのうち２クラスで、授業を検証するため複数の観察者が授業を参観した。そのため今回の報告は、観察者のいた２クラスについてとする。また、授業についてはビデオ録画し、授業者及び観察者はICレコーダーを持ち授業に臨んだ。なお、これについて生徒及び管理職への許可は得ている。

６月に実施した２クラスは、２月の授業評価を行い、授業内容や資料等の改善を行ったのち、実施した。

(2) 授業内容

１班４～６人グループで、リストラされ収入の少ない父（58歳）、体調不良の母（55歳）、ストレスで退職した兄（25歳）、進路に悩む高校生（17歳）の家族４人の役割になり、ロールプレイングで問題を解決していく。あらかじめ、座席と班分けを決めておき、資料１のワークシートと資料２のあらすじを配布しておく。授業者は、授業開始後この家族の状況を図３のようなスライドを用いて説明する。そして、生徒はそれぞれの役割になって、家族で問題解決について話し合う。しかし、ここでの話し合いでは情報が少なく解決に至らない。そのため、エキスパート活動に移る。ここでは、席を移動して役割別に集まり、同じ立場の専門家として、解決策につながる情報の資料を自分たちで読み解き知識を得る。その後、ジグソー活動では、元の家族に戻り得た知識を活かし、家族で問題解決策を考える。そして、クロストークで、各班の家族の解決策を発表し合い、最後に、個人で解決策を振り返る。

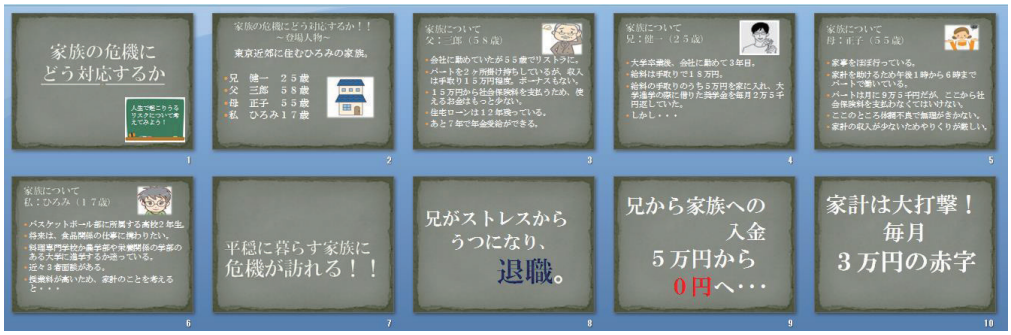
課題提示クラスは、①赤字の家計をどうするか　②高校生の進路をどうするか　が解決すべき問題として提示されている。一方の課題発見クラスでは、家族で問題をみつけ、解決すべき課題を挙げるところから学習はスタートした。

それぞれの役割は、エキスパート活動の中で問題解決につながる資料を得る。この内容

は、資料３に添付した。父は、資産額や住宅ローン等について書かれており、家を売却した場合とそうでない場合の家賃比較ができるようになっている。母は、家族全員の生活時間とこの家族の家計についての資料で、家族の家事分担や家計の無駄な点などを考えることができる。兄は、これまでもらっていた給与明細と失業にあたっての手当の申請方法などの内容で、失業後の社会保障を学び、対処方法を学ぶことができる。高校生は、生涯賃金の比較や進学にかかる費用、奨学金がテーマとなっており、どんな進路を選択するか現実的に考えられる。これらの内容に関連した学習は、2017 年入学生については、2018 年２月の実践授業時までに既習であった。一方、2018 年入学生は、６月実施時点で、まだ学習していない状態である。

2018 年６月実施授業では、役割になる段階で、セリフの入ったシナリオを班ごとに演じるロールプレイングを導入した。これは、２月授業実践を受けての改善点でもある。２月授業時は、班員がそれぞれ家族の役割となって授業を進めたが、シナリオを読むなどの活動は実施していない。授業の流れは、図４に授業設計として示した。

図３　授業導入時に使用したスライドの一部



4　結果と考察

(1) 2018 年２月実施、課題提示クラス（Ⅰ組）と課題発見クラス（Ⅱ組）に関して、授業観察者および授業者の評価と生徒のワークシートを比較し検討した。これは、それぞれの授業場面での授業観察者による生徒の様子についての記述や授業者による振り返りを用いてまとめた。授業観察者は、Ⅰ組は４名、Ⅱ組は３名であった。

①　家族の状況説明時の様子

課題提示クラス（Ⅰ組）は、提示された課題をどう解決するか問題解決策を考え、課題発見クラス（Ⅱ組）は、この家族の問題は何か課題を発見するところから班で取り組み、その問題解決策を考えた。この時の様子を、授業者及び観察者の授業記録からまとめると

図４　2018 年２月実施　授業設計図

<table>
<tr><td>＜リスク発生＞
解決すべき生活問題は何か？
班で家族の問題をみつける（Ⅱ組）</td><td colspan="4">＜リスク＞収入減になった〇〇家、どうする？
・兄が退職して、家計に入れていた５万円が入らなくなって、毎月３万円の赤字家計をどうする？　ひろみの進路？（Ⅰ組・問題提示）</td></tr>
<tr><td colspan="5">↓</td></tr>
<tr><td>家族を役割分担(4 人家族を分担)
→役割の立場で、問題解決策を考える
→家族で、問題解決策を考える</td><td>A；兄（25 歳）
大卒。就職 3 年目で手取り 18 万円、5 万円を家計に入れていた。ストレスで退職。</td><td>B；父（58 歳）
55 歳で会社をリストラ。現在、2 か所でパート。手取り月 15 万円。住宅ローン残り 12 年。</td><td>C；母（55 歳）
パートで、手取り月 9 万 5 千万円収入。体調不良。</td><td>D；高校生（17 歳）
高校 2 年生。専門学校か、大学か、進路に悩んでいる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">↓（移動）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エキスパート
（同じ役割が集まって、その立場の問題や知識を得る）

資料の内容は、
・自分の立場の理解、共感につながる資料
・問題解決につながる知識や情報を得る資料</td><td>これまでもらっていた給与明細。</td><td>年金受給額
社会保険料
資産 250 万円。
住宅ローン残高 550 万円</td><td>家族の生活時間。</td><td>学費。進学の必要経費。</td></tr>
<tr><td>失業手当の申請方法、失業給付金額。教育訓練。社会保険料手続きや奨学金停止の申請。</td><td>老後に必要なお金。住宅ローン。固定資産税。家の売却と家賃比較。</td><td>家族 4 人分の家計の収支。1 ヶ月の必要経費（赤字前と赤字後の比較）。</td><td>奨学金。奨学金の返済。生涯賃金の比較。高校生のアルバイト時給。</td></tr>
<tr><td colspan="5">↓（移動）</td></tr>
<tr><td>ジグソー活動
（元の家族に戻って、建設的に持ち寄った知識を活かして問題解決策を考える）</td><td colspan="4">得た知識を発表し合う
→建設的相互作用で、家族の問題解決策を考える
問題解決の優先順位
→なぜ、そうするのか、理由も考える</td></tr>
<tr><td colspan="5">↓</td></tr>
<tr><td>クロストーク
（解決策をクラスで発表する。）</td><td colspan="4">班の家族の問題解決策を発表する
→なぜ、その問題解決策にしたのか、根拠を説明する</td></tr>
<tr><td colspan="5">↓</td></tr>
<tr><td>個人で解決策について
フィードバック</td><td colspan="4">個人で、決定した問題解決策でよかったのか、解決策を評価する。
→実際の生活で、問題が起きたときの解決策や対応を考える。</td></tr>
</table>

以下のようになる。

Ⅰ・Ⅱ組共に、授業導入時の状況説明の段階では解決策として短絡的な意見があった。（家を売る、臓器を売る、生命保険金　など）　Ⅰ組は、その短絡的な意見をそのまま解決方法としてワークシートに記述する様子も見られた。一方、Ⅱ組は、解決策の前に解決すべき課題を班ごとに設定する必要があるため、授業者から班員に対して「その解決策にするのは何が問題だからなのか」と改めて問うことができた。そのことで意見を考え直す生

徒が多かった。

また、役割については、Ⅰ組は当事者意識が薄い生徒が多く、Ⅱ組は家族としての仲間意識が芽生えている生徒が目立った。これは、授業者の進め方やクラスの雰囲気なども影響もあった可能性があるが、それらだけが原因ではないと思われる。Ⅱ組は、課題が書かれていないことにより、自分たちでこの家族の問題を探さなければいけないという必要に駆られた生徒が多かったのではないか。それに対して、Ⅰ組は課題が明確化されていることで、「これだけをやればいい」という気持ちにつながってしまったのではないかと推察される。家族の状況を認識する導入で、このような差が出ることは予想外であったが、このことは展開場面（エキスパート活動・ジグソー活動）でも影響を及ぼすと考えられる。

課題提示クラス　Ⅰ組	課題発見クラス　Ⅱ組
・家を売る、臓器を売るなど課題に対して短絡的な発言がある。 ・全体的にどこか他人事で、自分の家族として捉えられていない。 ・自分の立場がピンと来ていない。役に入り込めていない様子。	・家族の状況を図解化して話し合う班あり。 ・「正子さん頑張っている」「おまえらが働かないから」「（ほかの３者）すみません…」 ・班によって何を問題とするか違いがあった ・問題解決策を先に考える班が多い。「もっと稼げる仕事につけばいい」「家を売ればいい」など

※授業者・観察者の授業記録より

② エキスパート活動時の様子

席を移動し、同じ役割のメンバーで新たに班を構成する。そこで、役割ごとに資料を読み解き問題解決策を練る。

資料は、同じ役割で協力し穴埋めの答えを考えるものや、計算、グラフの読み取りなどですぐに答えの分かるものではない。そのため、一緒の役割となったメンバーの協力が大切である。

課題提示クラス（Ⅰ組）は、役割によっては資料活用が進まないグループも見られた。何のために資料の読み解きをしているのかを忘れ、もともとの課題解決と結びつけて考えられていなかった様子もあった。

課題発見クラス（Ⅱ組）は、Ⅰ組同様、資料の読み解きには時間がかかる班も多かったが、全体的には活発な意見交換が行われていた。途中、休み時間を挟んだが話し合いを続ける生徒も多く、雑談の中でも考え続けている様子も見られた。

課題提示クラス　Ⅰ組	課題発見クラス　Ⅱ組
・資料の読み解きには、時間がかかっている様子。資料から離れ、自分の経験をもとにした解決策）を話す生徒もいたが、その後資料に戻れた。 ・資料の読み方のヒントがあるとスムーズに進んでいた。特に、計算が必要な資料だった役割は夢中で計算している。 ・資料の読み解きに集中し、解決すべき課題を忘れている生徒もいる様子。	・資料の読み解きには、時間がかかっていたが、関連するこれまでの学習を活用している生徒もいた。 （社会保障やローンなど） ・途中、休み時間があったが、その間も話し合いを続けている生徒もいた。 ・「一番考えなくてはならないのはひろみの幸せなのではないか」という意見が出ていた。

③　ジグソー活動時の様子

持ち寄った知識を、元の家族に戻って報告する。課題提示クラス（Ⅰ組）は、班によって話し合いの深まりの差が大きく、話し合いにスムーズに入り問題解決が行われている班とそうでない班があった。また、課題で問題となっていない兄に対して冷たい態度もあった。一方、課題発見クラス（Ⅱ組）は、授業者からの声かけで、元々班で設定した課題を改めて思い出させ話し合いを促したこともあり、問題解決の話し合いがうまく進んでいる班が多かった。

課題提示クラス　Ⅰ組	課題発見クラス　Ⅱ組
・具体的に話し合いができる班は、自分の役の資料を見ながら話し合いに参加していたが、話し合いが深まらない班もあった。 ・生活費（母）や家のローン（父）についての資料は、具体的に話し合っている様子。 ・兄を邪魔者にする班が多かった。	・お互いの資料を見せ合って、話し合いを進めている班があった。 ・家族に戻ったときに、そんな資料があったなんて！と相手の資料に驚く場面もあった。 ・休み時間も熱心に話し合いを続けるグループあり、どうしたらいいだろうと考え続けていた。

④　クロストーク（発表）

授業の残り 30 ～ 40 分程度頃から、発表準備及び発表を行った。どちらのクラスも理由を示し､分かりやすく発表できていた。また他の班の発表に対して関心を持って話を聞き、メモもよく取っていた。

課題提示クラス（Ⅰ組）は、提示されている課題について解決が終わっていない班もあった。特にひろみの進路については､半分の班が途中までの解決で終わってしまっていた。

課題発見クラス（Ⅱ組）は、課題の設定により班ごとの解決策に差が出た。課題を発見できなかったため話し合いや解決策も深まりがない班もあったが、具体的で現実的な意見の班もあった。また、ユニークな解決策もあり班ごとの個性が出た。

課題提示クラス　Ⅰ組	課題発見クラス　Ⅱ組
・黒板に要点を書かせたため発表準備に時間がかかりやや発表が短くなってしまった。 ・理由を示しながら、具体的に発表できていた。 ・課題である①３万円の赤字②ひろみの進路については、①のみ解決できた班が多かった。	・理由を示しながら、具体的に発表できていた。 ・課題をしっかり挙げている班は、解決策も具体的だった。 ・パターン化せず、様々なアイデアが出ていた。 ・班でよく考えられた案が多く、説得力があった。

⑤　ワークシートの授業の振り返り・感想についての記述

＊ワークシートは資料として添付

ワークシートの授業の振り返り・感想欄の記述を分析するにあたり、大きく２つに内容を分類することとした。１つ目は、授業方法や授業内容についての感想である。この分類は更に、「話し合い･発表」について「エキスパート資料」について、「授業内容・その他」についてとした。

２つ目は、生徒個人の振り返りについてである。この内容は、学びの深まりの段階のよって６つに分類した。学びの第１段階として､「役割家族への想い」について書かれたもの、第２段階として「問題や解決策の再認識」、そして第３段階として「他の班の発表を聞いての解決策の変容」とした。そして、第４段階は「自分の家族への感想」、第５段階は「自分の今の生活への引き寄せ」、第６段階は「自分の将来の生活への応用」についてである。第４～６段階は、自分の生活への落とし込みがなされているとして深い学びに近づいたと考えた。

以下の表１・２は分類ごとの記述例とその記述が見られた割合を示したものである。なお、ワークシートの記述は、内容が２種類以上の分類に読み取れる場合は、重複してカウントしているため、合計は100%を上回っている。

課題提示クラス（Ⅰ組）と課題発見クラス（Ⅱ組）を比較すると、授業方法や授業内容に関する記述が多いのは、Ⅱ組であった。特に、話し合いや発表に関する肯定的な記述が多く見られた。また、表２にまとめた生徒個人の振り返りについては、「問題や解決策への再認識」と「他の班の発表を聞いての解決策の変容」の項目が２クラス共に高い割合となった。課題提示クラス（Ⅰ組）は、「問題や解決策への再認識」が特に高く、70%、次いで「解決策の変容」が51.2%であった。一方、課題発見クラス（Ⅱ組）は、「問題や解決策への再認識」が37.8%、「解決策の変容」が62.2%であった。このことから、授業を振り返った際に、Ⅱ組に比べⅠ組の方が自分の解決策が適切であったと振り返る生徒が多かったと言える。また両クラス共に、50%以上の割合で変容が見られたことから、他の班の発表を聞いてよりよい解決策や新たな問題点を考えることができたようだ。振り返りに

ついての記述は授業の最後に行ったため、全ての活動を通しての変容と考えられるが、特にクロストーク（発表）で根拠を示しながら発表した班や、違う解決策を述べた班からの影響が大きいと考えられる。人の意見を聞いたことで自分の考えを見直し、改めて考え直すことは、思考の深まりと捉える事ができる。また、どちらのクラスも多いとは言えないが、Ⅰ組に比べⅡ組の割合が高いのは、第４段階「自分の家族への感想」、第５段階「自分の今の生活への引き寄せ」、第６段階「将来の生活への応用」に関する記述である。これは、役割から一度離れ、自分自身や家族について考えられている。授業だけで終わるのではなく、学んだ事を自分の生活の中へ落とし込もうとする姿勢の表れと考えられ、授業への集中がうかがえた。

表１　授業方法や授業内容についての感想

分類	ワークシートの記述例（生徒記述原文）	Ⅰ組・課題提示（n=41）	Ⅱ組・課題発見（n=37）
話合い・発表	・様々な意見が出て面白かった。 ・他の班の意見を聞くと、新しい考えを聞くことができたため、とても参考になりました。	4.9%	32.4%
エキスパート活動	・解決策があるのか、初めは何もわからなかったけど、調べてみたできることは何個かあるんだと分かった。	0.0	16.2%
授業内容・その他	・１つの行動に対するメリットとデメリットを考えることが大変だった。 ・班での話し合いはもう少し自分の意見を言えたらよかったと思う。	7.3%	18.9%

表２　生徒個人の振り返り

学びの深まりの段階	ワークシートの記述例（生徒記述原文）	Ⅰ組・課題提示（n=41）	Ⅱ組・課題発見（n=37）
第１段階 役割家族への思い	ひろみはまだ高校生なのに、私たちの班の案だとかなりの負担を負わせてしまってかわいそうだと思った。	26.8%	2.7%
第２段階 問題や解決策への再認識	家計をやりくりすることで、支出20万円まで抑えられる。家を売ることで、追加300万の貯金ができる等、この家族にはまだできることが多々あると思いました。	70.7%	37.8%
第３段階 他の班の発表を聞いての解決策の変容	お金をすぐに手に入れるための方法を考えるのではなく、４班のように、年金をもらって楽になるまでのしのぎ方を考えるというのは思いつかなかった。考え方を変えてみることは大切だなと思った。	51.2%	62.2%
第４段階 自分の家族への感想	授業を通してここまでではないけど、父母も色々な努力をして自分がいると改めて感じた。	0.0%	5.4%
第５段階 自分の今の生活への引き寄せ	家族で生活していくということは、自分だけでなく皆のことを考えなくてはならないので、とても大変なことだと思った。	2.4%	16.2%
第６段階 自分の将来の生活への応用	この状況はいつ自分の身に起こるか分からないから真剣に話し合うことができてて、未来の対策ができている気もしてよかったです。	7.3%	24.3%

⑥　授業改善点について

2018年２月実施の授業評価や生徒のワークシートを受けて、主に４点の変更を加えた。

１点目は、家族の状態で兄の病状を変更した。元の授業では、兄は「うつになり退職」という状況だった。しかし「うつ」の状態が理解しにくく、どの程度の仕事ができるのか、また回復の見込みが分かりにくい様子があった。一方、うつについて詳しい生徒もいたがあくまでも一部に限られ、知識の偏りにより誤解を生じる可能性もあると判断した。これらのことから、「ストレスによる自己都合退職」に変更した。

２点目は、ロールプレイングを活動として導入した。はじめの段階では、ストーリーを読むだけであったが、当事者意識が薄い様子が見られたことや状況をより理解しやすくするため、役割に入り込む活動として取り入れることとした。授業開始時に家族の状況説明

後、セリフが書かれたシナリオの読みあわせを班ごとに行った。

また、ロールプレイングを導入するにあたり、ワークシートに役割の思いを書くスペースを加えた。家族の中で特定の誰かが我慢をする、我慢をさせる場面が見られたため、家族全員の思いを大事にしながら問題解決をしてほしいという願いによって加えた。自分の役割の立場でどうしたいか、どう感じたかを書くことによって、家族全員の思いを大切にできると考えた。

３点目は、エキスパート資料の改善である。既にＡ４片面印刷で１枚であったが、資料の読み解きに時間がかかったため、内容の精査を行った。また、資料を見て何をしたら良いか分からないという生徒の意見も少なからずあったことから、資料の読み解きをガイドする２つのクエスチョンとそれに対する考えを一時的に書きこむスペースを加えた。

４点目は、問題解決をする課題を１点だけあらかじめ書いたことである。２月に実施したクラスで、課題提示に比べ自ら課題発見し設定したクラスの方が、学びの深まりが窺えた。このことから、課題設定は、生徒自らが実施すべきではないかと考えた。ただし、課題発見クラスにおいて班によっては安易な課題のみに終始している様子も見られたため、明らかに問題である１点のみ明示し、その他は生徒自身が考えるようワークシートを工夫した。その際、優先すべき課題が何か書き込み、順位も書けるようにした。なお、これらは全て「対話的で深い学びを創る家庭科研究会」のメンバーで話し合い協力し改善を行った。

(2) 2018年６月実施、授業改善後

上記の変更点を加え、2018年入学生２クラスに対して授業を行った。授業観察者は、２名だった。同じ内容で実施したため、結果は２クラス分を合わせてまとめることとした。

① 家族の状況説明時の様子

ロールプレイングを導入したことで、自分が何の役割なのか理解し、また家族の状況についても実感を伴って理解できた様子があった。ロールプレイングの時間は楽しんで活動し、その役割の気持ちもそれぞれが切実に記入できていた。また、ストーリーに興味を持って読んでいる様子もあった。

授業観察者・授業者の記録
・ロールプレイングで台本を読んで役に入り込みやすかった様子、気持ちを書く流れは良く、書いたものを班で発表するのも良くできていた。 ・シナリオを読んで、家のローンって、こんなに長かったかな？うちは10年で返し終わってる、こんな状況でお金借りるかなー、お金借りるなんてばかじゃないの？という声も聞かれた。

② エキスパート活動時の様子

資料の読み解きは難しい様子だったが、クエスチョンを見て自分達でやろうとしていた。「失業保険」「社会保障」「ローン返済」などの用語がある父親資料と兄資料は、まだ授業で取り扱っていない内容であったため、取組みに時間がかかった。また、授業者が説明する必要があった。説明を受けたことで理解できる班もあったが、結果的にやや主体性に欠けてしまった。

授業観察者・授業者の記録
・資料から家を売らない方がお金がかからないと読むことができても、みんな家を売るという結論になっていた。今の問題解決を優先させるという考え方のようだ。 ・学習する前の内容が多い、兄や父の資料の場合、自分で読み取る意識が希薄で、同じ役割の誰かが発言すると、鵜呑みにして記入していた。 ・母の資料の、父に「庭の手入れ」があったら、家庭菜園をやったらいいという発言があった。 ・兄は、収入のことしか考える材料がないので、色々な道を考えられないようだった。 ・母の資料の、父に「庭の手入れ」があったら、家庭菜園をやったらいいという発言があった。

③ ジグソー活動の様子

元の家族に戻り、順番に解決策を話していたが、解決すべき課題に対してやや抽象的な結論をまとめる班があった。これは、エキスパート活動で、資料を十分に理解できなかったことが影響していると思われた。一方、班ごとに解決すべき課題とした内容は、「兄の医療費」や「父母の老後」などこれまでにあまり課題に挙がらなかったものもあった。ストーリーの変更やロールプレイングの導入によって、家族全員の思いを大切にしようと協力した結果も影響していると考えられる。

授業観察者・授業者の記録
・ジグソー活動で班に帰った時、自分の持っている資料を他の班員に見せて説明すると具体的になり、他の班員も話をよく聞いていた。 ・「ただいま」など元の家族のメンバーに戻れてうれしそうな様子もあった。 ・ワークシートへの記述はきちんと行っていたが、どの解決策を選ぶか迷っている様子。

④ クロストーク（発表）

発表の際は、解決策を理由と共に発表できていた。ただし発表に慣れていない、または自信のない様子の生徒もおり、１つの班の発表方法や内容に流されてしまう雰囲気もあった。問題解決方法は、ひろみの進学を断念させてしまう班や、進学に関して何の言及もなかった班もあった。また、兄が早く治ることを想定している班もあり、治らなかった場合などの具体的な案がなく、やや抽象的な回答が目立った。

授業観察者・授業者の記録
・発表資料を書く段階で、話が進み相談している班が多かった。 ・書いたことを発表するというときに、話し合いではうまくいっていたのに、どこを発表すればよいかをとまどっていた班があった。 ・理由を示しながら発表を行えていたが、具体性に欠ける班や、他の班と同じ答えになるように発表する班もあった。

⑤　ワークシートの授業の振り返り・感想についての記述

ワークシートの授業の振り返り・感想欄の記述は、２月の授業と同様に分類し、考察することとした。

全体を通して、最も記述が多かった内容は、第２段階の「問題や解決策への再認識」であった。この家族の課題点について、改めて確認する内容を記述する生徒が多かった。記述内容からは、「やはり父の負担を減らすべきだと思うので、兄に何かしらの仕事をさせるべきだと思う」のように、自分の解決策を再度記入している生徒も多かった。ただし、記述内容を再読すると、気持ちの揺れ動きが感じられるものも多く、「ひろみがバイトするのはやっぱり負担が大きすぎると思った。（中略）母の負担は考えていなかったけど辛いと思うので、家族で家事分担するという意見はとても良いと思う」など、班で話し合って出た意見と同じであっても、家族の気持ちや他の案などを検討した様子が見られた。

問題や解決策の変容についての記述は、34.5％と２月実施授業と比べると多くなかった。このような結果になった原因として主に２つ考えられる。１つ目は、シナリオやエキスパート資料の分かりやすさを求めた結果、誘導的になってしまったことである。２つ目は、まだ学習していない内容を含む「エキスパート活動」を行ったために、解決策に自信を持てなかった可能性があることである。エキスパート活動での理解のためには、基礎的な知識の必要性を感じた。一方、「兄が家でできる仕事があった。雇用保険があった。（中略）もっと妹に負担のないプランがあると思う」などのように、他の班の意見を吸収し、その発表時間の中で学べている様子もあった。資料の読み取り、話し合い、発表など様々な形態で学ぶことや、それぞれが学んだことを共有することで、足らなかった部分を補い合える。このような機会は、学びを深める要素となるといえるだろう。

今回取り入れた、ロールプレイングによって、役割家族への想いや自分の生活への引き寄せに関する記述はどのような結果となったか。まず、「役割家族への想い」に関する記述は23.8％であり、２月実施の課題提示クラス（Ｉ組）とほぼ同数値となった。一方、第４段階「自分の家族への感想」は2.4％、第５段階「自分の今の生活への引き寄せ」7.1％、第６段階「自分の将来の生活への応用」は1.2％となり、これらの記述は、ほとんどなか

表３　授業方法や授業内容についての感想

分類	ワークシートの記述例（生徒記述原文）	（n=84）
話合い・発表	・自分が思いつかないような解決策がたくさん出てきてびっくりした。もっと具体的な内容を話し合えばよかったかなと思った。 ・自分の発想が乏しいことがよくわかった。	9.5%
エキスパート活動	・失業保険5235円（１日）×90日もらえるので、これを毎月３万円の赤字を埋められると思った。 ・最初むりだと思ったが、意外と何とかできたのでおどろいた。 ・収入の少なさがいかに困るか良く分かった。	10.7%
授業内容・その他	・色々な意見を聞けてよかった。 ・僕らは割といい意見を言ったと思う。	21.4%

った。これらは、当事者意識を持ち授業を深めるために意図して授業改善した点であったが、ワークシートの記述の中でよりよい変化は見られなかった。導入段階で、役になりきり活動をスタートすることはできたものの、学習活動の中心をなす、「エキスパート活動」

表４　生徒個人の振り返り

学びの深まりの段階	ワークシートの記述例（生徒記述原文）	（n=84）
第１段階 役割家族への想い	・ひろみの進学を断念させるのはかわいそうだと思う。 ・兄の生活が不自由になるくらい身を削らせるのはやりすぎだと思った。 ・ひろみは進学を諦めてほしくない。きっと将来後悔するから。	23.8%
第２段階 問題や解決策への再認識	・保険に入ったり、健一やひろみのバイト、また大学へひろみが行くなら安いところで奨学金を利用するのがいいと思った。 ・一時的な収入になってしまうかもしれないと思われるかもしれないが、ひろみが大学に進めばアルバイト代で家賃を払えるようになると思うので最善である。	65.5%
第３段階 他の班の発表を聞いての解決策の変容	・ひろみはバイトと勉強の両立が容易ではないことをもっと考えるべきだった。だけど６班で考えた事は現実性がありまともだったと思った。	34.5%
第４段階 自分の家族への感想	・困ったとき家族の役割分担が大切だと思った。 ・家族で話し合う事が大切だと感じた。	2.4%
第５段階 自分の今の生活への引き寄せ	・これは人の家族なので割とドライに進学断念をさせたけど、自分だったら辛いと思います。 ・自分は将来こんなことにならないように頑張ろうと思った。	7.1%
第６段階 自分の将来の生活への応用	・今は親に学費を出してもらったりしているけれど、いつか自分が子どものために学費を出すことを考えるとこういう事態も考えておかなければいけないなと感じました。	1.2%

で十分な知識を得られなかった場合、その後の活動での学びの深まりは難しいのではないかと推察する。つまり、資料はあくまでも既に持っている知識を活用するためのツールであり、あらかじめ基礎的な知識を持ち合わせているか否かによって学びの深まりは変わると考える。どの時期にどのような学習方法でどんな内容を学ぶかが、生徒にとってより効果的な学びであると言えるのではないか。

5　まとめ

ロールプレイングを導入した知識構成型ジグソー法の授業実践を通して、授業の重要性を改めて認識した。実践の結果、生徒が授業の中で得た知識を活用し仲間と協力しながら問題解決をしようと努力する様子を見ることができた。ただし、６月の実践は、２月に比べ学びが深まったと捉えられる場面が少なかった。この原因は、先に考察したが、基礎的な知識の不足があると考えられる。今回の学習方法の場合、ある程度の基礎的な知識を持った上で成り立つものであると思われる。そのため、授業改善後も、思ったような成果が現れなかったと考えられる。適切な時期に実施することで十分な効果が期待できることから、生徒の実態と学習の流れ、適切なカリキュラム作りが大切である。

また、家庭科教育において求められるのは、生活上の諸問題を主体的に解決し、克服してゆく力の育成にある。家庭生活を取り巻く諸問題は、自然科学的な側面と社会科学的な側面とを併せ持ったものが多く、問題を解決するためには双方の方法を踏まえた視点が必要であるといわれている。そのためには、問題解決の各場面で活かすことのできる知識と技術の習得を目指すことが求められている。(5) 今回の授業は、身近な生活課題の解決を取り入れた活動であると共に他の人との意見交換から問題解決を導き、協力して活動する重要な学習内容であった。また今日扱ったテーマもライフプランや家庭経済、社会福祉など、社会に生きる１人の人間として必要な知識を、周囲の人と協力し助け合いながら養う機会となっていたと考える。

今後の課題として、３点挙げられる。１点目は、生徒の実態に合った教材作成と授業の進め方である。改めて学習の流れを見直し、生徒の持つ基礎学力のレベルや学習経験に応じて、適切な指導計画を立て教材の工夫を行うことが大切だと考える。

２点目は、生徒の学びの深まりをはかる方法の検討である。ワークシートの記述を分析したが、十分とは言えない。生徒の記述の変化などまだ見取る事ができていない内容もある。また、学び（思考）の深まりをワークシートの記述から見るため、「対話的で深い学びを創る家庭科研究会」で分類を設定した。この分類が学びの深さを知るための尺度として機能しているかについても、実践を重ねながら検証していく必要がある。また、今回は設定しなかったが、パフォーマンス課題とその評価基準であるルーブリックを作成する方法も効果的で

はないか。求める結果を明確にし、それに対して児童・生徒にどのような姿（パフォーマンス）を評価するのか[6]を設定すると、より学習の成果が明確になるであろう。

３点目は、授業者のファシリテート力の向上である。生徒の主体的・対話的で深い学びのためには、事前の準備と授業者の進め方が重要であると実感した。授業者の工夫により安心して発言できる学習環境を整えることで、生徒の持つ潜在能力や新たな一面も発見できる授業になる可能性がある。自分自身の授業への気持ちや生徒との向き合い方も改めて振り返り改善する機会としたい。

今回の、ロールプレイングを導入した知識構成型ジグソー法の授業は、全ての学習内容対して有効ではないが､多くの学びを与える学習方法の１つでとても有意義な内容だといえる。資料作成とグループ分けを実施する必要があり、指導する上で困難な点もあるが、生徒の新たな一面を発見することや生徒たちの中で学びが深まる機会ともなる。生徒の反応からも多くのことを学ぶことができたと言える。今後もよりよい授業づくりや学習方法の工夫に挑戦していきたい。

引用・参考文献

(1) 中央教育審議会（2015） 初等中等教育分科会（第 100 回）配布資料　資料１　教育課程企画特別部会 論点整理『新しい学習指導要領等が目指す姿』

(2) 国立教育政策研究所（2013） 教育課程の編成に関する基礎的研究報告書５　社会の変化に応対する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理

(3) 日本家庭科教育学会編（1998）『家庭科 21 世紀プラン』家政教育社

(4) 全国家庭科教育協会（2017） 佐藤学『質の高い共同的学びの追求　－アクティブ・ラーニングの要件－』

(5) 佐藤文子、川上雅子（2001）『家庭科教育法』高陵社書店

(6) 全国家庭科教育協会（2017）『生徒の学びの変革を目指すパフォーマンス課題づくり』

三宅なほみ（監訳）P. グリフィン『21 世紀型スキル　学びと評価の新たなかたち』 北王路書房

東京大学 CoREF　知識構成型ジグソー法　http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515

松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房

資料１

「家族の危機にどう対処するか！！」

年　　組　　番　名前

１．家族の役割分担（　　）班；父（　　）、母（　　）、兄（　　）、ひろみ（　　）

２．ロールプレイングをして、自分の立場の思い（感じたこと、どうしたいか）を書いてみよう。

役割に○	（　）父 （　）母 （　）兄 （　）ひろみ	

３．家族に思いを発表し合って、家族の解決すべき問題をあげて、問題解決の優先順位を考えてみよう。

家族の問題	○毎月３万円の赤字をどうするか　⟶優先順位（　）位 ○　⟶優先順位（　）位 ○　⟶優先順位（　）位 ○　⟶優先順位（　）位

４．３であげた問題について、家族の思いを大切にして、可能な問題解決策を話し合ってみよう。

５．同じ役割で集まり、資料を参考に問題解決に向けて考えられることを整理しよう。

役割に○	（　）父 （　）母 （　）兄 （　）ひろみ	

６．元の家族に戻って、それぞれの役割で得られた問題解決の情報を家族に説明する。(役割ごとのメモを取る)

説明した人の役割に○	（　）父 （　）母 （　）兄 （　）ひろみ	
	（　）父 （　）母 （　）兄 （　）ひろみ	
	（　）父 （　）母 （　）兄 （　）ひろみ	

７．家族で得られた情報を基に、３であげた家族の問題について、具体的にどの問題をどう解決するのか、解決策を話し合おう。なぜそうするのか理由も考えよう。

家族の問題	
解決策	
理　由	

８．各班の家族の問題解決策とその理由を発表し合い、思ったこと・工夫されていたことなどのメモをとろう。

１班		２班	
３班		４班	
５班		６班	
７班		８班	
９班		１０班	

９．他の班の発表を聞いて、もう一度、家族の問題解決策を個人で振り返ってみよう。本当によかったのか、もっと別の解決策の方がよかったのではないかなど、授業を通して考えたこと、思ったことを書いてみよう。

自己評価	①役割になって考えることができたか	A できた、　B まあできた、　C できなかった
	②家族に自分の役割の解決策を伝えられたか	A できた、　B まあできた、　C できなかった
	③家族で協力して問題解決策を決定できたか	A できた、　B まあできた、　C できなかった

資料２

ロールプレイング　【家族の危機にどう対処するか！！】

あらすじ

東京近郊に住むひろみの家族は，3 年前に父がリストラに会い転職するも収入が激減。　母は更年期で体調がすぐれない。　兄も仕事のストレスからから自己都合退職を余儀なくされた。兄からの入金が途絶えた**家計は月３万円の赤字**となり，高２のひろみの進学にも影響が及びそうである。

父の年金受給が始まる７年後までどうやって乗り切ればよいか考えてみよう！！

私（ひろみ）17 歳 高校 2 年生のひろみは，バスケット部に所属している。将来は食品関係の仕事に携わりたいという思いがあり，進路はフレンチのシェフになるために料理専門学校にするか，果物の品種改良やお菓子の商品開発などもやってみたいので農学部又は栄養関係の学部に進学するか迷っている。	**母(正子)55 歳** 家事のほとんどを行いながら，週 5 日午後 1 時から 6 時までパートで働いている。給料は手取り 10 万円。 父（三郎）の収入と合わせた中から家族の国民健康保険料，国民年金保険料，介護保険料も支払わなければならないので家計は苦しい。	**父(三郎)58 歳** 会社勤めをしていたが不況から 55 歳でリストラに会う。再就職は年齢的なこともあり正社員の職は見つからなかった。 今はパートを 2 か所掛け持ちで週 20 時間ずつ計 40 時間働いている。 税引き後の月収は手取り 16 万 5 千円。ボーナスはない。会社の社会保険には加入できない。	**兄(健一)25 歳** 大学卒業後，民間の会社に勤め，給料は 3 年目で税金・社会保険料を除いた手取りは 18 万円であった。そこから月 2 万 5 千円を奨学金の返済にあて，毎月 5 万円を家に入れていた。 厳しい生活の中からも貯蓄をし，現在 15 万円ためている。

≪第１話≫

★夜，居間で父がくつろいでいる。そこへ健一が青ざめた顔をして帰ってきた。

兄(健一)：ただいま。父さん話があるんだ。少し相談に乗ってもらっていいかな。

父(三郎)：なんだ。

兄(健一)：俺，会社やめようと思っている。

父(三郎)：何かあったのか。

兄(健一)：いままで何とかノルマを果たそうとやってきたけど，ここ数カ月ほとんど眠れないし，胃が痛くて食事ものどを通らない。体はきつくてふらふらするし，何もする気が起きないんだ。そんな状態がここず一っと続いてもう限界だと思う。

父(三郎)：そうか。お前の体のことが一番大事だから，よく考えて決めなさい。

★夕食の後始末が終わった母（正子）に，父(三郎)が切り出した。

父(三郎)：健一が仕事をやめたいそうだ。毎日残業残業ではまいってしまうな。体も限界にきているようだし。少し休ませてやらんとな。

母(正子)：私も大丈夫か心配していたから，それを聞いてほっとしたわ。

父（三郎）：家計の方は何とかなるかな？
母（正子）：健一からの入金が無くなると，月３万円位の赤字にはなるけど，健一の体には代えられないわ。何とか切り詰めてやりくりしてみるわ。

★そして数日後
兄（健一）：父さん，母さん。俺会社に辞表を出してきたよ。通院しながらしばらく体を休めることにするよ。
父（三郎）：それがいいだろうな。
兄（健一）：これから医療費もかかるし申し訳ない。
母（正子）：そんなことは心配しなくても大丈夫よ。それよりもゆっくり体を休めて早く良くなってね。
兄（健一）：父さんの方こそかけもちで働いているけど大丈夫？
父（三郎）：慣れない仕事だが何とかやっているよ。来年度契約が更新されるかどうかはわからんが，住宅ローンもあと 12 年残っているしな。そこまでは何とか頑張らんと。

≪第２話≫
★土曜日の夕方。父は洗濯物の取りこみ，母は食事作りをしている。そこへひろみが学校から帰って来た。
私（ひろみ）：ただいまー。あーお腹すいた。何か食べる物ない？
★パンがあるのを見つけて立ったままほおばっている。
母（正子）：お帰り。手も洗わずお行儀悪いわね。
私（ひろみ）：だってお腹がすいて死にそうなんだもん。
母（正子）：もうすぐご飯ができるわよ。ちょっと待って。
私（ひろみ）：はーい。　　ところで話があるんだけど
母（正子）：なあに。
私（ひろみ）：先生が再来週三者面談を行うから，進路について親御さんとよく話し合っておきなさいだって。はい。これその通知。
母（正子）：そうなの。　　ひろみはどう考えているの？
私（ひろみ）：将来は食品関係の仕事に就きたいと思っているんだけど。その中で迷っている。フレンチのシェフになるために料理専門学校にするか，果物の品種改良やお菓子の商品開発などもやってみたいから，農学部や栄養関係の学部に進学するか。でも，どれも授業料が高くて・・・。どうかなと思っている。
母（正子）：何とか進学はさせてあげたいけど，あなたも分かってのとおり，今のうちの家計は厳しいの。
私（ひろみ）：わかってる。なるべく家計に負担をかけないで進学する方法を探してみるよ。

★夕食後，ひろみと健一は部屋に戻り，母が父に話しかける。
母（正子）：お父さん。ひろみの進路についてだけど。
父（三郎）：来年は受験だな。
母（正子）：ひろみは，食品関係の仕事に就きたくてシェフをめざして料理専門学校にするか，農学や栄養の勉強をしたいらしいの。どちらも結構授業料が高いそうよ。
父（三郎）：何とかしてやりたいけどな。
母（正子）：でも，何とか収入を増やしたくても，私はこのとおり無理がきかないし，お父さんは仕事を２つも掛け持ちをして大変だし。それでも今の稼ぎでは，健康保険，年金，介護などの保険料を払うだけでもやっとよ。とても進学の費用までは手が回らないわ。
父（三郎）：健一の医療費もあるしな。何とかならないかな。

資料３

兄　健一　25 歳

Q1. 給与明細から社会保険料を確認してみよう。

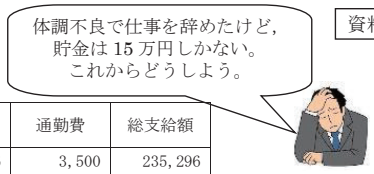


表１　給与明細

支給額	基本給	役職手当	住宅手当	家族手当	時間外手当 (125%)	通勤費	総支給額	
	215,000	0	0	0	16,796	3,500	235,296	
控除額[注1]	健康保険料[注2]	厚生年金保険料[注2]	雇用保険料[注2]	介護保険料[注2]	所得税	住民税	総控除額	差引支給額（手取り額）
	11,964	21,394	1,159	0	4,700	12,200	51,417	201,879

注１ 控除額とは支給額からあらかじめ引かれるお金

注２ **社会保険料**（健康保険料、厚生年金保険料、雇用保険料、介護保険料）は国の社会保障制度の一つで、国民の生活保障のために設けられた公的な保険制度。一定の条件を満たす国民は社会保険に加入して保険料を負担する義務がある。

退職１ヶ月前（円）		退職後はどうなる？　どうする？
貯金	150,000	→使えば無くなる
収入：給与手取り額	201,879	→無くなる

給与から控除されていたもの（差し引かれていたもの）	社会保険料	健康保険料	11,964	**○国民健康保険に加入する** ・病気等の治療費は３割負担 ・世帯主が保険料を負担（父が月約 2,700 円の増額） ＜手続きの場所＞ 市区町村役場	**×国民健康保険に加入しない** ・病気等の治療費は 10 割負担（全額負担）
		厚生年金保険料	21,394	**○厚生年金から国民年金に切り替える** ＜手続きの場所＞ 年金事務所 **ア　保険料を支払う** ・１ヶ月の保険料は 16,340 円。 ・将来もらえる年金の減額はない。 **イ　特別免除制度を使う** ・１ヶ月の保険料は０円。 ・将来もらえる年金は，この期間分の 2/3 が減額される。	**×そもそも国民年金に加入しない** ・もらえる年金は厚生年金加入期間分 アかイを選択
		雇用（失業）保険料	1,159	**○失業保険の手続きをする** 以下の条件がそろうことが必要。 ・就職する意思と能力がある。 ・積極的に求職活動を行っている。 ・離職日以前の２年間に被保険者期間が 12 カ月以上ある。 退職理由、雇用保険の加入期間などにより、受給金額、受給期間が変わる。申請から支給まで約２ヶ月。健一は 5,325 円（1 日）×（ 90 ）日間の基本手当が支給される。＜手続きの場所＞ ハローワーク	**×失業保険の手続きをしない** ・保障を受けられない。
	税金	所得税	4,700	収入がある場合に，収入から所得控除を引いた金額に対して一定の税率で課される税金。	
		住民税	12,200	市町村民税・道府県民税の総称で、１月１日時点の住所地に納付する税金。 前年に所得がある場合は納税義務がある。	
支出	奨学金返済		25,000	**ア　毎月 25,000 円返還する**	**イ「返還期限猶予」の手続きをして返還を待ってもらう（最長 10 年間）**
	家族の家計へ		50,000	収入がないので支払えない	アかイを選択

Q2　今後どうしたらよいか考えてみよう。

表２　国民年金保険料，住民税，奨学金返済を貯金から支出する場合のシミュレーション

			退職から 1･2 ヶ月後	3･4･5 ヶ月後	6～12 ヶ月後
貯金			150,000 円	42,920 円	361,550 円
収入	雇用（失業）保険	5,325 円	申請後２ヶ月は支給されない　0 円	5,325 円×90 日 =479,250 円	0 円
	基本手当（90 日間）				
支出	国民年金保険料	16,340 円	53,540 円 ×２ヶ月 ＝107,080 円	53,540 円 ×３ヶ月 =160,620 円	53,540 円 ×７ヶ月 =374,780 円
	住民税	12,200 円			
	奨学金返済	25,000 円			
残高			（ 42,920 ）円	361,550 円	−13,230 円

受けられる公的支援

・**教育訓練給付**【雇用保険】支給額は教育訓練経費の 20%相当額（上限 10 万円）

・**公共職業訓練**【職業能力開発促進法】WEB デザイン、簿記など無料講習

・**生活保護**

セーフティーネット

表２のシミュンレーションを見て，どんなことに気づきましたか。健一の今後について考えてみよう。

父　三郎（５８歳）

健一の医療費にひろみの受験。
なんとかしてあげたいが老後のことも心配だ。
どうしたらいいものか…

収入	**月 26 万 5 千円**（＝月 16 万 5 千円（父）＋ 月 10 万円（母））※月 3 万円の赤字
貯蓄	**250 万円**　　**※月 3 万円ずつ切り崩していくと 7 年で 0 円**

Q1. 家計の赤字を解決する１つの方法として，住宅費を検討してみましょう。
住宅ローンの支払いがあと 12 年間残っています。現在の家に住み続ける場合と，家を売却して賃貸マンションに転居する場合ではどちらがいいでしょうか。それぞれのメリット・デメリットを考えてみよう。

	①現在の家（築 20 年）に住み続ける場合	②家を売却して賃貸マンションに転居する場合
収入	○現在の家に住み続けた場合の収入 計　0 円	○家を売却した場合の収入 (1)売値　800 万円 (2)住宅ローンの繰り上げ返済　- 470 万円 （住宅ローンの残り 600 万円の利子を除く） (3)売却手数料・事務経費　- 30 万円 売却時の収入　計　300 万円
支出	●現在の家にかかる年間支出 (1)住宅ローン　月 4.2 万円×12 か月＝ 年 50.4 万円 (2)固定資産税　年 4.8 万円 (3)火災保険料　年 2.4 万円 (4)修繕・メンテナンス費用　年 12.0 万円 （外壁の塗装，屋根の補修等） 現在の家にかかる支出　計　年（　　）万円	●転居時にかかる支出 (1)入居時費用（敷金など）　32 万円 (2)引越し費用　15 万円 転居時にかかる支出　計（　　）万円 ●賃貸マンションにかかる年間費用 (1)家賃　月 8 万円×12 か月＝年 96 万円 (2)更新料（隔年 8 万円）　1 年あたり　4 万円 賃貸マンションにかかる支出　計　年（　　）万円
	◆13 年後以降の支出 ・ローンの支払いはないが，固定資産税・火災保険料を毎年払い続ける。 ・修繕・メンテナンス費用が増える。 例）台所，風呂場，トイレの改築　計 約 200 万円	◆13 年後以降の支出 ・家賃・更新料を毎年払い続ける。 例）年 100 万円×10 年＝（　　）万円
メリット		
デメリット		

Q2. 父が 7 年後，母が 10 年後に受給できる公的年金は下記の通りです。老後に向けての資金準備をどうしたらよいだろう。

父（7 年後受給）	国民年金※1（老齢基礎年金）＋　厚生年金	＝　月　約 **12 万円**
母（10 年後受給）	国民年金※1（老齢基礎年金）	＝　月　約 **6 万 5 千円**
計（10 年後受給）		月　約 **18 万 5 千円**

→最低限の生活費※2との差　：　月 22.0 万円－月 18.5 万円＝月（　　）万円の不足

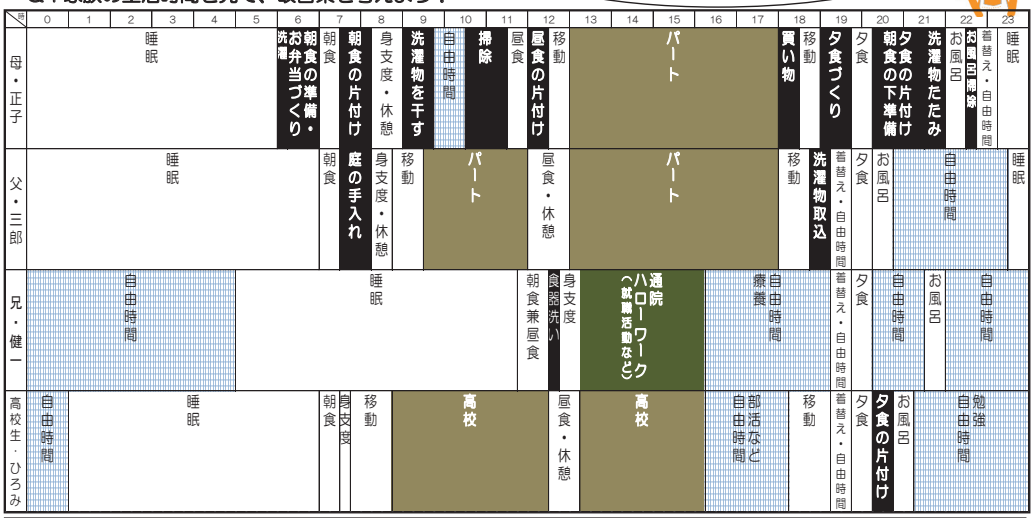
※1 国民年金は，２０歳以上６０歳未満のすべての人が強制的に加入し，老齢・障害・死亡の保険事故がおこったときに基礎年金を支給する公的年金制度。老齢年金は 65 歳から受給できる。
※2 老後に必要な最低限の生活費＝平均月 22.0 万円，ゆとりある生活費＝平均月 34.9 万円

老後資金の準備策

パートと家事を頑張っているが、体調不良で無理がきかない。でも家計が・・・

母　正子　55歳

Q1 家族の生活時間を見て、改善策を考えよう！



生活時間の改善策

Q2．1ヶ月の手取り収入と支出の内訳を見て３万円の赤字を減らす改善策を考えよう！

手取り収入	母	父	兄	合計
	100,000	165,000	0	265,000

★生活時間と家計を見直して3万円の赤字を少しでも減らそう！
↓変更箇所を書き込もう

支出項目			金額	兄退職後1ヶ月後の支出内容	
実支出	消費支出	食費	72,000	食材一日2,400円（4人分）	
		住居	10,000	修繕費を月割りしたもの10,000円	
		光熱・水道	18,300	電気9,000円・ガス6,500円・水道2,800円	
		家具・家事用品	6,020	洗濯洗剤・調理用品・箱ティッシュ・掃除用シートなどの日用品6,020円	
		被服・履物	1,673	靴下473円、下着1,200円	
		保健医療	9,000	兄の治療費9,000円	
		交通通信	38,300	4人分の携帯とインターネットプロバイダー料29,500円 通学定期6,500円・NHK受信料2,300円	
		教育	11,300	教材費・修学旅行の積み立て等9,300円 部活の費用2,000円	
		教養・娯楽	4,500	新聞3,500円・参考書1,000円	
		その他	12,300	町内会費300円 お小遣い父4,000円、母4,000円、高校生4,000円	
	非消費支出		67,607	国民年金保険料（父母）32,680円、国民健康保険料（4人分）・介護保険料（父母）30,927円、固定資産税を月割りしたもの4,000円	
実支出以外の支払			44,000	住宅ローン42,000円、火災保険2,000円 貯金0円	
合　計			295,000	←30,000円の赤字	

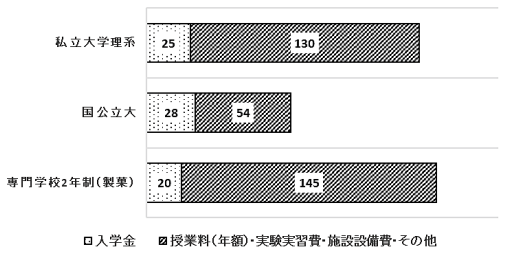
家計の改善策

高校生　ひろみ 17 歳

将来は食品関係の仕事に就きたい。
進学したいけど、兄が失業！
母は体調不良！どうしよう？？

Q1. 進学にかかる費用を比較してみよう。

図1　初年度学費等（万円）



出所：文部科学省「平成 26 年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額（定員 1 人あたり）の調査結果について」
公益財団法人東京都専修学校各種学校各種学校協会「平成 28 年度学生・生徒納付金学調査結果」、生活費は日本学生支援機構「学生生活調査」平成 26 年度より

■進学すると、合計いくらかかるか計算してみよう

学校別	入学金（万円）	年間学費×年数（万円）	合計（万円）
私立理系（4 年分）	25	130×4＝520	
国公立大（4 年分）	28	54×4＝216	
専門学校（2 年分）	20	145×2＝390	

表 1　性別・学歴別生涯賃金　（万円）

	高校卒	高専・短大卒	大学卒
男性	2 億 4006 万円	2 億 3972 万円	2 億 8653 万円
女性	1 億 8411 万円	2 億 125 万円	2 億 3579 万円

出所：厚生労働省「平成 28 年賃金構造基本調査結果（初任給）の概況より。賃金データは厚生労働省「平成 28 年賃金構造基本統計調査」から、退職金データは平成 25 年就労条件総合調査から推定
参考：日経電子版
https://style.nikkei.com/article/DGXMZO15805150X20C17A4000000/?page=2

●大学の二部（夜間）の特徴

授業料は、国公立であれば入学金、年間授業料ともに昼間部のおよそ半分。私立も同じく昼間部の半分から 3 分の 2 程度。

Q1. 進学費用を比較し、気づいたことをまとめよう。

Q2. 奨学金制度をどのように利用するか考えてみよう。

表 2　第 2 種奨学金例（年利 1％の場合）

貸与月額	貸与総額	返還総額	返還月額（円）	返還回数（年数）
12 万円	576 万円（4 年間）	約 639 万円	26,606	240 回（20 年）
6 万円	288 万円（4 年間）	約 313 万円	16,311	192 回（16 年）
12 万円	288 万円（2 年間）	約 313 万円	16,311	192 回（16 年）

※年利は変動がある。
※日本学生支援機構には第 1 種と第 2 種があり、多くの人が第 2 種奨学金を借りている。
出所：日本学生支援機構

● 初任給平均（平成 28 年賃金構造基本統計調査結果）
大学卒　203,400 円
高専・短大卒　176,900 円
（ちなみに高卒　161,300 円）

● 奨学金返済ができないと
①返済できずに**延滞**した場合、延滞金利（年率 5%）が課される。3 か月以上延滞した場合、クレジットカードが作れなくなる。
②返済できない事情がある場合、一定の要件の下で**返済の猶予**が認められる。ただし、**申請する必要**あり。
③卒業後に**自己破産件数**も増加している。

●30 歳未満一人暮らしの支出合計（1 か月平均）
196,037 円　（※支出は消費支出と非消費支出を加えた合計値。出所：総務省「全国消費実態調査」（単身世帯のうち勤労者世帯）平成 26 年）

Q2. 奨学金をいくら借りるか？　不足分はどうするか？　（返済することはできるか？　あるいは借りない場合はどのような方法があるだろうか？）